

# 会報

No. **110**

平成29 (2017) . 3 . 1

## 「神河町中央公民館図書室です」

神河町中央公民館 館長 井上智博

神河町は、兵庫県のほぼ中央に位置するハート型の町です。平成17年11月7日に神崎町と大河内町が合併し、神河町が誕生しました。北部は朝来市、東部は多可町、南部は市川町、姫路市、西部は宍粟市と接しており、播磨と但馬を結ぶ、歴史ある地域として発展してきました。

神河町の面積は、202.23平方キロメートルで、その8割を山林が占めており、千町ヶ峰を筆頭に、千ヶ峰、暁晴山など、1000m級の山々に囲まれています。

人口は11,853人（平成28年12月末現在）で県内一人人口が少なく、65歳以上4,026人、高齢化率33.97%と急速に高齢化が進んでおります。

神河町は合併前から図書館がなく、合併後も2つの公民館及び児童センターきらきら館の3館の図書室で運営しています。



中央公民館外観

図書館建設を待ち望む声はとて多いですが、厳しい財政状況の中で図書館建設は困難となっています。

公民館では、規模は小さいながらもできるだけクエストに沿うように図書の購入を行なっています。また3館どこでも貸出・返却・予約を受け付けることができます。さらに、児童センターきらきら館では、児童を対象にあおぞら図書館（移動図書）として地域を巡回したり、ボランティアによる「おはなし会（本の読み聞かせ）」などが行なわれていたりしています。



神崎公民館図書室

平成27年から播磨圏域連携中枢都市事業に参加し、その年の11月から始まった播磨圏域内の図書館相互利用では、年度末までに200名を超える神河町民が他市町の図書館の利用をさせていただきました。また、念願のインターネットでの図書蔵書検索も可能となりました。



児童センターきらきら館

平成28年度からは、兵庫県図書館協会にも加盟させていただき、兵庫県立図書館や近隣市町の図書館にお世話になりながら、町民の利便性の向上に取り組んでまいりたいと思っています。どうぞよろしく願いたします。

## 先人の思いを次につなげて

神戸市立中央図書館

たにおか 谷岡  
ふみえ 史絵

昨年、図書館の先輩のお別れの会に出席する機会がありました。昭和 56 年に全館オープンした新中央図書館立ち上げに尽力された方で、新築の正面玄関前で撮られたお若いころの写真等を拝見しながら、多くの出席者とともに故人を偲びました。

オープンから 35 年の月日が流れ、今や神戸市立中央図書館は満身創痍の様相です。今年度より施設管理を担当していますが、空調機器などの設備は次々と修理が必要となり、外壁の大規模修繕も必要になってきました。資料に関しては、時間の流れやそれを残すための努力というものに思いをはせることはあっても、先人の目指した図書館サービスやそれを具現化しようとした建物への思いを受けとめる機会には多くなかったように思います。15 年の永年勤続表彰をいただきましたが、図書館サービスに対する考えは、様々な仕事をさせていただき、それによって知らなかったことを知る機会をいただくごとに、いよいよ揺らぐばかりです。誠実な仕事で先人の思いをつなげ、その中で模索を続けていきたいと考えています。

## 来フラリ～

### 本棚一つ分の想い

たつの市立新宮図書館

うめむら 梅村  
かほり

「この町に図書館ができる」25 年前、初めてそう聞いた時、胸が躍りました。オープン当日に訪れた高校生の私は本に夢中になり、閉館の音楽にも気づかない程でした。その図書館で働き始め 17 年が経ちました。支えてくださった先輩方や地域の方への感謝の気持ちでいっぱいです。

現在、図書館には開館当初には無かった棚が幾つもあります。そのうちの一つがヤングアダルト向けのコーナーです。部活や勉強が忙しく、図書館への足が遠のく世代ではありますが、絵本や短い物語のその先の世界にも触れてもらえたら、と作った棚です。手に取ってもらいやすいような装丁の本の隣に、自分は十代前半に知ることができなかったけれど、今の中高生たちには出会ってほしい、という本も並べています。時にその思いが伝わり、サトクリフやレイチェル・カーソンを借りてもらえると、思わず笑みがこぼれます。

わずか本棚一つ分のコーナーではありますが、ここから本をもっと好きになってもらいたいと願い、工夫を重ねる日々です。

## 私と図書館

三田市立図書館藍分室

やまもと 山本  
のぶこ 信子

私が図書館で働くきっかけになったのは引越し先の近くに開館 1 年目の三田市立図書館があったからです。新しい沢山の読みたい本、リクエスト受付、何より感じの良い対応をしてくださり大変満足したものです。サービスを受ける側から提供する側になりたい、『図書館の奥はどうなっているのだろうか?』と思うようになり司書資格を取得しました。念願かない嘱託司書として 20 年、指定管理になり 3 年働かせていただいています。

司書としての仕事は箱検収から始まり、BM・雑誌・データ・予約・選書・・・一通りのことができるようになると、藍分室・ウディタウン分館へと異動しました。カウンターにいたら『紹介してもらった本、面白かったよ』とか、探しておられる資料を提供すると『さすが、図書館の人!』と言われるのは本当に嬉しいもので次からの活動源になります。反対に十分に資料提供できなかった時は自己嫌悪に陥るので、解決するようにすぐ調べるようにしています。

図書館で働くようになってから“他の図書館はどうやっているのかな?”と気になり、友だち・家族または一人で図書館めぐりをしたり、旅先でふらりと立ち寄りして、各々の図書館の特色や刺激となるものを感じとったりしています。書架構成・ラベルのとり方・雑誌の置き方・特集やサインなどを拝見してヒントをもらったこともあります。

現在勤務している藍分室は小さな図書室です。月に一回司書による“おはなしかい”を開催しています。地域の方々には『私の身近な本棚』と思ってもらえるように、問題解決できる図書館、生涯学習の場そして憩える場所を提供できるようサービスしたいと思います。一緒に働く仲間に支えられて、永年勤続表彰をいただくことができました。図書館で仕事をしていく上での大事なことやノウハウなど新しいスタッフに伝えて行くことが今の私の務めと考えています。

### 子どものころの夢を叶えて

兵庫県立こどもの館児童図書室

うしごめ まさこ  
牛込 雅子

小さいころから本が好きで、いつも夢中で読んでいました。そして、いつか図書館で働く人になりたいと思っていました。少し大きくなって憧れたのは村岡花子さん。こんなに素敵な外国の物語を読むことができるのは、翻訳家が素晴らしいからと思いました。その後、人生半ばで図書館や児童図書室で働くようになった時、子どもの頃の夢が思いかけず叶ったことに驚き、不思議な思いがしました。

今、毎日絵本や児童書に囲まれて幸せです。こどもの館は場所柄、子どもたちだけでは来られないこともあり、普段の利用者はほとんどが小さい子どもたちと、親御さんたちです。街から少し離れた館の急な坂を、重い本や荷物を抱えて登ってこられます。そんな利用者さんたちを笑顔と元気な挨拶でお迎えするのが私たちスタッフのモットーです。子どもたちと絵本や児童書との幸せな出会いがたくさんあればいいなと願っています。そして少しでもそのお手伝いができるように、心を尽くしたいと思っています。

## 全国図書館大会助成事業報告

テーマ：職員研修「『地域の情報拠点』としての図書館  
～ヨコハマライブラリーカフェの取組～」  
開催日：平成28(2016)年10月20日(木)  
会場：神戸市立中央図書館  
講師：鈴木裕美子氏(横浜市中央図書館調査  
資料課担当係長)

横浜市では平成18年の「これからの図書館像」の提言を受け、サービスの方向転換が行われました。課題解決支援が求められる中、5カ年計画での蔵書再構成、医療・法情報・ビジネスなどのコーナー整備、レファレンス機能の強化等を行っています。これらは特に新しいサービスではなく、従来のものを仕分けし、求めに応じて「どの方向から見せるか」の工夫であると話されました。

「見せる」ための有効な方法のひとつがイベントです。横浜では企画展示や講演会等のほか、ライブラリーカフェを開催しています。市民の関心の高いテーマを選定し、専門家を招いての講義に加えて参加者同士の意見交換を行うなど、知的情報の共有を図るものです。定員は40名程度で、講師を間近に、お茶等を飲みながら寛いだ雰囲気を受講できます。図書館ではブックリストの作成と関連図書展示も毎回行い、これらを合わせたひとつのサービスとして実施しています。



シリーズとしての継続を重視し、開催は既に45回を重ねていますが、参加者は60代以上が半数を占め、もともと図書館を利用している人が多いそうです。新しい利用者や現役世代をどう呼び込むか、広報を今後の課題のひとつとして挙げられました。

近年、多くの図書館員が日常業務に追われ、資料や調査に深く向き合うことが難しいのではないのでしょうか。専門家と利用者をつなぐこの取り組みでは司書自身も新たな分野の知見に触れ、その力を養うことができることも話されました。私たちはいつも先を見据え、腕を磨いておかねばなりません。手を掛けた事業は形を変えて、また次のサービスへと繋げていけるのです。

(神戸市立中央図書館 西山智子)

## 全国図書館大会助成事業報告Ⅱ

テーマ：子ども読書活動推進モデル事業  
開催日：平成28(2016)年10月16日、11月19日  
会場：明石市立図書館・明石公園  
兵庫県立図書館

子ども読書活動推進モデル事業として昨年の10月と11月に2つのイベントを実施しました。

10月は「明石公園をたんけんして、葉っぱのミニずかんをつくろう!」。葉っぱの専門家である、兵庫県立人と自然の博物館の小館研究員と一緒に明石公園の自然観察。参加者のみなさんは、研究員から初めて聞く話に驚いたり、喜んだり。自然観察の後は室内へ戻り、研究員の説明を聞いたり、図書館の本を見たりして、自分の拾ってきた葉っぱやドングリを観察し、世界にひとつだけのミニ図鑑と標本づくりを楽しみました。兵庫県立図書館は9月から仮設図書館へ移転し、イベント実施スペースが限られているため、こちらのイベントは明石市立図書館様のご協力を得て実施することができました。



11月には「えほん de ピクニック」を実施。たくさん絵本に囲まれた部屋で自由な雰囲気でお絵本を楽しんでいただくとともに、武庫川女子大学金子ゼミによる科学実験ワークショップも実施。絵本を読み聞かせる親子の姿や科学の不思議に触れ夢中になってワークショップに参加する子どもたちの姿が見られました。



これからも、兵庫県立図書館は子どもを含め幅広い世代が読書の楽しさを共に体験することができる様々なイベントを実施していきます。

(兵庫県立図書館 小林美樹)

第1回研究集会報告

テーマ：図書館における障害者サービスとは  
 開催日：平成28年11月25日（金）  
 会場：芦屋市立図書館  
 講師：立花明彦氏  
 （静岡県立大学短期大学部教授）

今回の研究集会は、立花明彦先生をお招きし、平成28年4月1日に施行された障害者差別解消法と図書館に求められる障害への合理的配慮についてご講演いただきました。

とても気さくなお人柄が印象的な立花先生ご自身も、視覚障害者であり、その経験をふまえた具体的な事例を挙げてわかりやすく解説していただきました。

障害者差別解消法では、行政機関等に「社会的障壁」の除去について合理的な配慮をすることを義務付けています。合理的配慮とは、障害者が他の人との平等を基礎とした、必要かつ適当な変更及び調整のことを指します。

図書館の障壁には「施設・設備の不備等の物理的な原因による障壁」、「資料がそのままでは利用できない障壁」、「コミュニケーションが取れない障壁」の3つがあります。これらの障壁は、身体的・精神的なものに限らず、外国人の言語等も含めた図書館の利用に障害があることを意味します。

障壁それぞれの対策を考えるだけではなく、障害者サービスとは、「求めに対して応じることである」ということが原則であり、図書館が一方向的に提供するものではなく、障害者も含めて一緒にサービスを考えていくべきであるというお話が、印象に残りました。



障害をお持ちの方が困っている場面に遭遇した時、まず「何かお手伝いしましょうか」という声掛けを大切に、相手の気持ちに寄り添った図書館サービスをこころがけていきたいと思えます。

（芦屋市立図書館 堂馬瑞希）

他館紹介

市民とともに歩む図書館を訪ねて  
 図書館力は市民力～伊丹市立図書館「ことば蔵」～

暮れなずむ街並みに煌々と灯りをともす白壁の建物。12月某日の夕刻、ライブラリー・オブ・ザ・イヤー（L○Y）2016大賞を受賞した伊丹市立図書館「ことば蔵」を訪問しました。訪問の目的は、今注目を集める図書館の秘密を探ること、隣の市のビッグニュースは大きな関心事でした。

L○Yのお話は、同館の小寺さんから伺いました。まず驚いたことは、L○Yの獲得は「ことば蔵」開館前の市民の提案がきっかけだったということでした。伊丹市立図書館は、L○Y大賞を受賞した図書館を市民と一緒に視察するとともに、誰もが自由に参加できる「交流フロア運営会議」を毎月開催し、市民発のイベントを多数実施しました。図書館職員は裏方としてイベントに参加する一方、毎週プレス発表するなど広報活動に努めました。L○Yの最終選考会に向けて、市民とともにプレゼンテーションを考え、会場まで同道しました。こうした市民と歩んだ積み重ねが受賞につながったようです。

小寺さんからは「L○Y大賞の受賞は、経費をかけて実現したものではなく、どこの図書館でも可能なことだと思う。県下の図書館もL○Yを目指してほしい。」とのメッセージをいただきました。

インタビューの後、「交流フロア運営会議」から生まれた「カエボン部」に参加しました。当日のテーマは、「誰かに贈りたい1冊」で、参加者の方々がそれぞれの熱い思いが詰まった本を紹介されていました。会はとてもアットホームな雰囲気、本や人への温かい気持ちが伝わってきました。

「カエボン部」で司会を務めた小寺さんは、続いて「本を読んで伊丹を走る」ことば蔵ランナーズクラブに参加、市民のみなさんと一緒に夜の伊丹の町へ走って行きました。その後ろ姿を見ながら、まさに図書館力は市民力だなど思うとともに、市民の声を真摯に受け止め、実現していく「ことば蔵」の職員の方々に敬服しました。

（川西市立中央図書館 藤本昭彦）



ライブラリー・オブ・ザ・イヤー大賞を受賞した伊丹市立図書館に寄せられた市民からの寄せ書き

- ・ **兵庫県立図書館**  
耐震改修工事に伴う仮設図書館への移転のための休館（6/6～8/31）／仮設図書館での開館（9/1）
  - ・ **神戸市立図書館**  
予約図書受取コーナー増設（3か所）（1/30～4/5）  
／自動貸出機全館導入完了（6/14）／予約図書件数制限開始 1人20件までに（6/20）
  - ・ **西宮市立図書館**  
個人番号（マイナンバー）カードを図書館借出券として利用開始（2月）
  - ・ **芦屋市立図書館**  
JR芦屋駅北側に返却ポスト新設（9/1）
  - ・ **伊丹市立図書館**  
国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始（4/1）／神津分館開館（5/6）／ライブラリー・オブ・ザ・イヤー受賞記念シンポジウム（10/23）
  - ・ **宝塚市立図書館**  
「宝塚市立図書館サービス向上計画（修正版）」策定（5月）
  - ・ **川西市立中央図書館**  
上置木製書架（5連4段）増設（10/31）
  - ・ **猪名川町立図書館**  
開館20周年記念行事（3/19）
  - ・ **明石市立図書館**  
図書館システムのバージョンアップ（5/26）／DAISY図書サービス開始、DAISY再生用プレクストーク・読み上げ読書器導入、拡大読書器刷新、ホームページ刷新（6/1）／新図書館利用券の有効期限を5年に延長（11/16）
  - ・ **加古川市立中央図書館**  
電子図書館サービス開始（7/7）
  - ・ **高砂市立図書館**  
高砂市子ども読書活動推進計画策定（2/1）／高砂市米田町に移転開館（2/14）／SAAS型クラウドシステム運用開始、ホームページ開設、電子書籍サービス・デジタル郷土たかさごサービス開始、貸出冊数改定、管理規則変更、自動貸出機・ICタグ導入、名誉館長設置、開館時間・休館日変更（2/14）
  - ・ **稲美町立図書館**  
図書館システム更新（12/1）
  - ・ **小野市立図書館**  
おのふるさとすぐろく貸出開始（1/4）
  - ・ **加西市立図書館**  
加西市立図書館運営方針策定（4/1）／ちょっとおもしろい播州弁検定（6/5）
  - ・ **多可町図書館**  
多可町子ども読書活動推進計画の状況検証、改定及び策定（7/15）
  - ・ **姫路市立図書館**  
図書館情報システム更新（新システム導入）（3月）  
／花の北図書館サービスカウンター開設（6/1）  
／分館のICタグ貼付作業開始（8/18）  
／ひめじ子ども読書週間記念行事（10/29～11/6）  
／マイナンバーカードの図書館利用（貸出）開始（11/27）  
－花北 建替工事に伴い長期休館（2/29～）  
－網干 リニューアルオープン（3/18）  
－広畑 大規模改修に伴い長期休館（9/1～平成29年8/31）
  - ・ **福崎町立図書館**  
町制60周年キャンドルナイト（9/16）
  - ・ **上郡町立図書館**  
図書館システム準備開始（10/1）
  - ・ **佐用町立図書館**  
夜の図書館開催（11/19）
  - ・ **朝来市図書館**  
図書館コンピュータシステム更新（10/1）  
／図書館まつり開始（10/22, 23）
  - ・ **丹波市立中央図書館**  
学習スペース増設（10席）（3/10）  
／丹波市子ども読書推進計画（第2次）策定（6月）
  - ・ **洲本市立洲本図書館**  
図書館システム更新（8/1）
  - ・ **洲本市立五色図書館**  
図書館システム更新（8/1）
  - ・ **加古川市立中央図書館、高砂市立図書館、加西市立図書館、稲美町立図書館、播磨町立図書館、姫路市立城内図書館、相生市立図書館、赤穂市立図書館、たつの市立龍野図書館、上郡町立図書館、いちかわ図書館、福崎町立図書館、太子町立図書館、佐用町立図書館、宍粟市立図書館、神河町中央公民館図書室**  
播磨圏域連携中枢都市圏内の図書館横断検索開始（播磨圏域8市8町）（7/15）
  - ・ **西脇市図書館、加西市立図書館、加東市図書館、多可町図書館**  
北播磨広域定住自立圏内での返却サービス開始（1/19）
- 内容については、「図書館年鑑2017年」編集に係る各加盟館からの情報提供を一部抜粋しました。

兵庫県図書館協会会報 No.110  
平成29(2017)年3月1日 発行  
編集・発行：兵庫県図書館協会  
〒673-0891 明石市大明石町2-1-29  
兵庫県立図書館内  
Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500  
E-mail:hyoto\_hyotokyo@library.pref.hyogo.lg.jp